



ポータブル有害ガス検知器
データログマネージメントプログラム
SW-GX-2000
取扱説明書

お客様へのお願い

- ・ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読み下さい。
- ・ご使用は、取扱説明書の記載通りに行ってください。

理研計器株式会社

〒174-8744 東京都板橋区小豆沢 2-7-6

ホームページ <http://www.rikenkeiki.co.jp/>

1. はじめに

本取扱説明書に記されている操作方法及び、注意事項は、指定の使用目的に使用する場合のみ適用するものです。本取扱説明書に書かれていない使用方法を行う場合は、当社としては責任は負いかねます。

本取扱説明書では、Microsoft Windows 95、Windows 98、Windows NT4.0ならびに、Windows XP のコマンド選択やダイアログボックスの設定などの基本的な共通操作については説明していません。初めて Windows をお使いになる方は、最初に Windows のマニュアルなどをお読みになり、Windows の基本的な操作方法を覚えてください。



警告

本製品のプログラム配布用CDの種類は「CD-ROM」です。
一般オーディオ用CDプレーヤーなどでは絶対に再生しないでください。
大音量により耳に障害を被ったり、スピーカーを破損する恐れがあります。

注意

ポインティングデバイスの必要性

本ソフトウェアは、マウス・タッチパッドなどのポインティングデバイスを必要とします。
キーボードのみでの操作は出来ません。

1-1. このプログラムの目的と特徴

本プログラムは、GX-2000に搭載されていますデータログ機能を使用して収集したデータをパソコンに取り込み有効活用するためのソフトウェアです。

データログ機能によって収集した検知結果をパソコンに取り込むことで次のような利点があります。

- ・検知結果の一覧表示ができます
- ・検知結果を印刷して紙で保管できます
- ・過去の検知結果を記録しておけます
- ・検知結果を手書きで紙に書き写す必要がなくなります。

おことわり

- 本書の内容の全部または一部を当社に無断で転載あるいは複製することは、法令に別段の定めがある場合を除き、堅く禁じられています。
- 本書の内容は、本製品の改良のため予告なく変更することがあります。
- 本製品をご使用になるには、別掲の「ソフトウェア使用許諾契約書」にご同意いただくことが必要です。パッケージを開封された際に、同条項へのご同意があったものとさせていただきますので、ご了承ください。
- 本ソフトウェアは、所定の目的以外の使用はできません。取扱説明書に従わず本ソフトウェアを使用した場合、あるいは独自の改造をした場合、製品の安全と品質が維持できなくなる場合があります。また、これらによって事故が発生した場合は責任を負いかねます。

(c) Copyright 2000,2001 Riken Keiki co.,Ltd. All rights reserved.
本ソフトウェアの著作権は理研計器株式会社が保有しています。

Microsoft、Windows95、Windows98、Windows NT、Windows XP は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

目次

	頁
1. はじめに	1
1-1. このプログラムの目的と特徴	1
2. インストールとアンインストール	3
2-1. 使用環境のご注意点	3
2-2. CD-ROM版をご使用になる場合のインストール	3
2-3. フロッピーディスク版をご使用になる場合のインストール	3
2-4. インストール画面の流れ	4
2-5. アンインストール作業	7
3. 操作方法	9
3-1. 基本画面	9
① GX-2000から最新データを受信する	10
② 既存データを削除する	11
③ 受信データの内容を表示する	11
④ 各種設定を変更する	12
3-2. データ一覧表	13
① 各種データ一覧表に切り替える	14
② 基本画面に戻る	14
③ データの詳細を見る	14
3-3. データ詳細	15
① 詳細データをExcelで読める形式にして保存する	16
② 詳細データを印刷する	17
③ 詳細データを直接Excelに貼り付ける	19
4. データの保守	21
4-1. データの格納構造の詳細	21
4-2. バックアップ	21
5. 使用上の注意点	22
6. クイックリファレンス	23
6-1. 各画面のボタンとショートカットキー	23
6-2. エラーメッセージ一覧	24
7. ケーブル仕様	25
7-1. 使用ケーブル	25
7-2. コネクタ・ケーブル内容	25
7-3. ケーブル結線図	25
8. ソフトウェア機能諸元	26

2. インストールとアンインストール

2-1. 使用環境のご注意点

本プログラムは、Microsoft 社製のオペレーティングシステムである、Windows 95、Windows 98、Windows NT 4.0 ならびに、Windows XP 上での使用が可能です。他のオペレーティングシステム上での使用は出来ませんのでご注意ください。

本プログラムの、インストール時には最大約20MB のハードディスク容量が必要になり、運用時にはデータ数に応じてハードディスク容量が必要になります。容量に十分余裕のある状態でご使用ください。

注意

CD-ROM 版の取り扱いのご注意点
① CD-ROM の保管 直射日光が当たる場所や高温多湿の場所での保管はしないでください。
② CD-ROM ドライブの指定 スロットインタイプの CD-ROM ドライブでのご使用は避けてください。 CD-ROM に貼付してあるラベルが影響して、CD-ROM の取り出しが上手く出来ないことがあります。 ご使用になる CD ドライブは、トレイ方式をご使用ください。

2-2. CD-ROM 版をご使用になる場合のインストール

ご使用になる、パーソナルコンピュータの CD-ROM ドライブに本プログラムの納められたインストール CD をセットします。しばらくするとインストール画面が自動的に起動します。

ご使用のパーソナルコンピュータが CD-ROM 自動起動処理に対応していない場合は、以下の方法で作業を進めます。

- ① “スタートメニュー”の“名前を指定して実行”をクリックします。
- ② “D:\SETUP.EXE”と入力し、“OK”ボタンをクリックします。

注意: 上記入力データは CD-ROM ドライブが D ドライブの場合を想定しています。実際に入力する際はご使用するパーソナルコンピュータの CD-ROM のドライブ番号をご確認してください。

または、

- ① Windows のエクスプローラを起動します。
- ② CD-ROM ドライブをクリックし、その中にある“SETUP”をダブルクリックします。

2-3. フロッピーディスク版をご使用になる場合のインストール

ご使用になるパーソナルコンピュータのフロッピーディスクドライブ装置に本プログラムが収められたインストールディスクの1番目(インストールディスク1)を挿入し、以下の方法で作業を進めます。

- ① スタートメニューの“名前を指定して実行”をクリックします。
- ② “A:\SETUP”と入力し OK ボタンをクリックします。

注意: 上記入力データはフロッピーディスクが A ドライブの場合を想定しています。実際に入力する際はご使用するパーソナルコンピュータのフロッピーディスクのドライブ番号をご確認してください。

または、

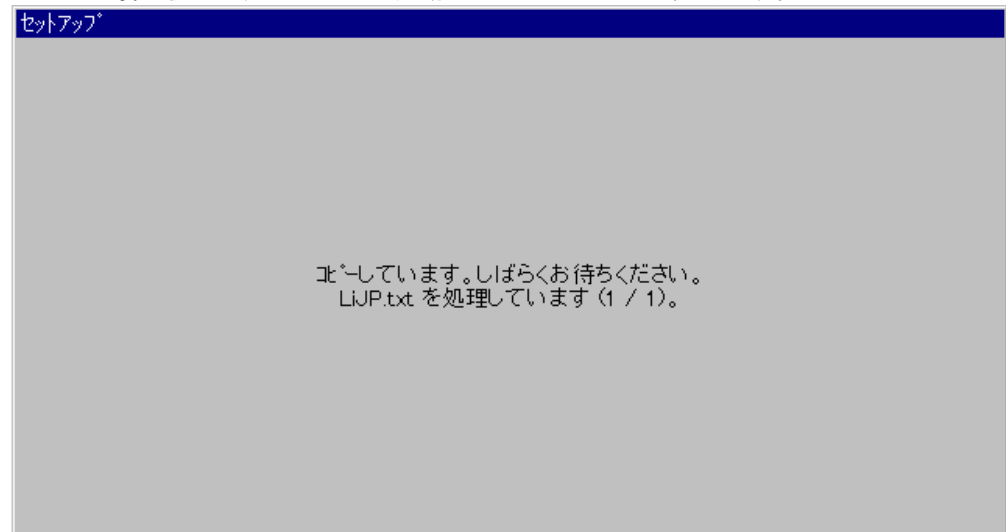
- ① Windows のエクスプローラを起動します。
- ② フロッピーディスクをクリックし、その中にある“SETUP”をダブルクリックします。

2-4. インストール画面の流れ

注意:ここからは、CD-ROM 版、フロッピーディスク版共通です。

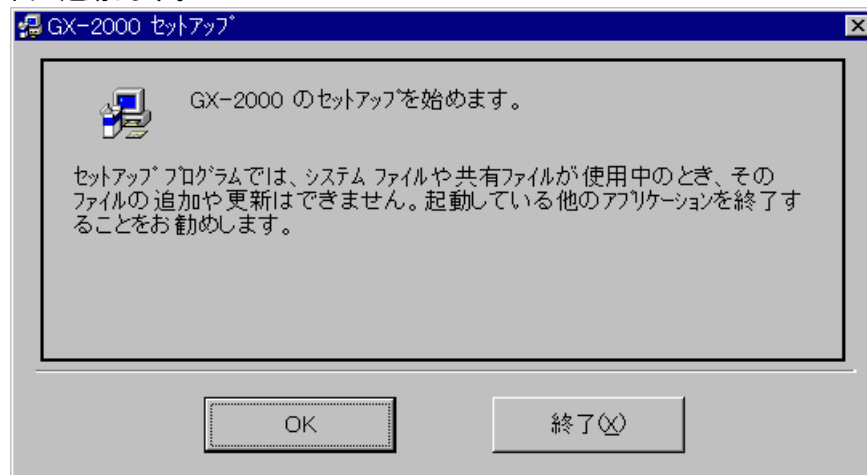
● セットアップの起動

CD-ROM 挿入後及び、SETUP.EXE 起動に以下の画面が立ちあがります。



● セットアップの開始

パーソナルコンピュータのシステムが必要なファイルをコピーし、コピーが終了と同時に以下の画面が起動します。

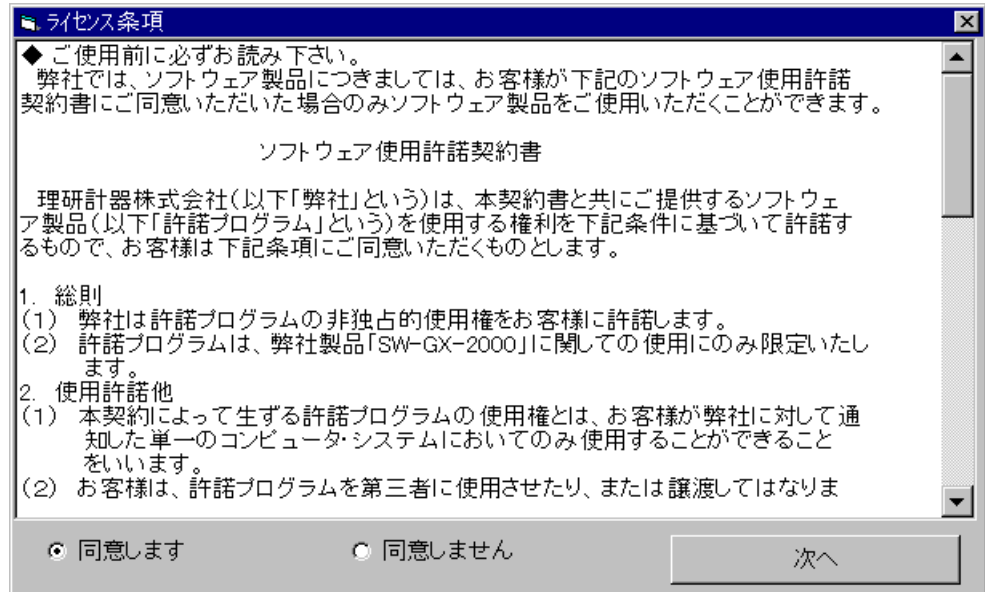


インストールを行う場合は“OK”、中止する場合は“終了”ボタンをクリックしてください。

注意:画面の指示に従い、他のアプリケーションが起動されている場合は一度本セットアップを終了し、他のアプリケーションを全て終了した上で再度セットアップしてください。

● 使用許諾書

“OK”ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

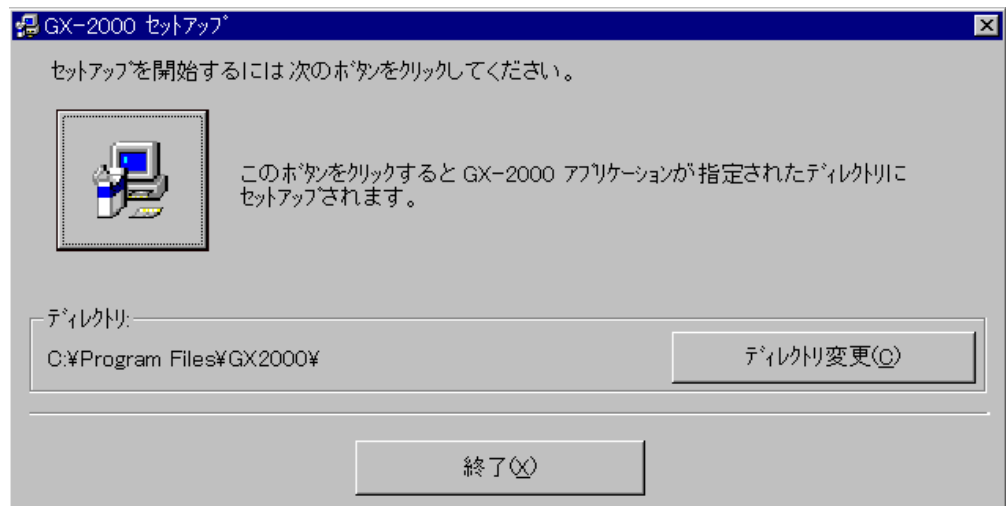


“同意します”の項目がチェックされている状態で(“●”が付いている)、“次へ”ボタンをクリックすると、インストールが継続されます。

“同意しません”の項目がチェックされている状態で、“次へ”ボタンをクリックすると、インストールを終了します。

注意:ソフトウェア使用許諾契約書の内容を十分ご理解の上、本ソフトウェアのインストールを進めてください。尚、本文はインストール用 CD-ROM、フロッピーディスク内にも格納されています。

● セットアップ



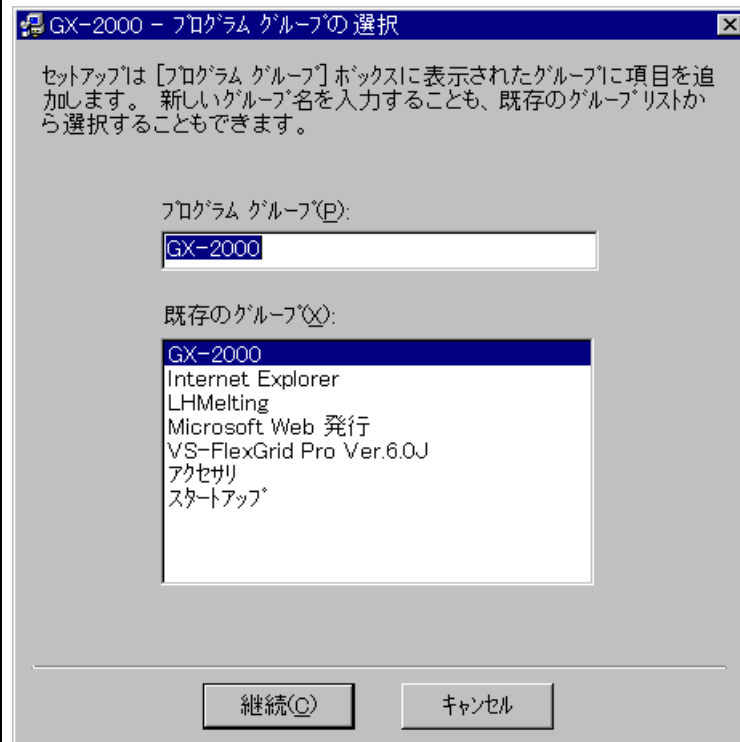
パーソナルコンピュータの絵のボタンをクリックすると、必要なファイルをパーソナルコンピュータにセットアップする作業を開始します。

“ディレクトリ変更”ボタンをクリックすると、セットアップするディレクトリを変更することが出来ます。

“終了”ボタンをクリックすると、セットアップを中止します。

● グループの設定

セットアップ作業の開始と同時に以下の画面が起動します。



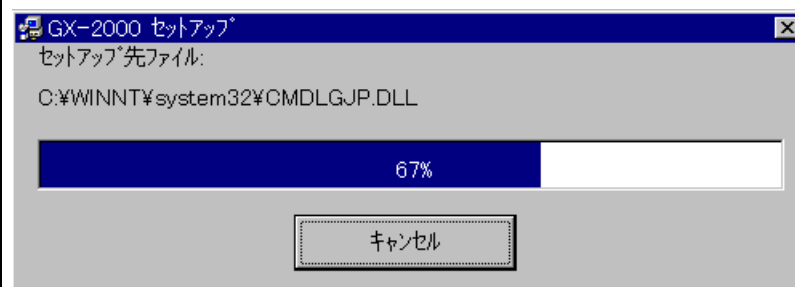
Windows 画面のタスクバーにある“スタート”メニュー内の“プログラム”をクリックした時に表示される本プログラムの名称を変更することが出来ます。

変更する必要が無い場合は、そのまま“継続”ボタンをクリックしてください。

“キャンセル”ボタンをクリックすると、セットアップを中止します。

● セットアップ処理

上記、“継続”ボタンをクリックすると、以下の画面が表示され、必要なファイルがパーソナルコンピュータ上にコピーされ、必要なセットアップ処理を行います。



コピーが終了し、セットアップ処理が終了しますと、“セットアップ完了”のメッセージが表示されます。

セットアップ完了後は、直ちに本プログラムがご使用になれます。

注意

Windows NT でのインストール注意点

本ソフトウェアは Windows システムに各種ドライバーなどのライブラリーが必要で、インストール時に自動的に組み込み処理が起動されます。

しかし Windows NT をご使用のお客様の場合は、システムライブラリーをインストールする際にアドミニストレータ(管理者)権限でのインストールを要求されます。

この場合は指示に従い、アドミニストレータでログオンし、システムライブラリーをインストールしてください。

その後システムの再起動を要求されますので、再起動後に一般ユーザーでログオンしなおし、アプリケーションのインストールを行います。

(ライブラリーも、アプリケーションも CD-ROM, フロッピー内の SETUP.EXE を起動すれば、OK です。システムフォルダ内に必要なライブラリーがない場合のみアドミニストレータ権限でのインストールが必要になります。)

2-5. アンインストール作業

● 起動

アンインストールは、タスクバーの“スタート”から“設定”をクリックし、その中にある“コントロールパネル”を起動します。

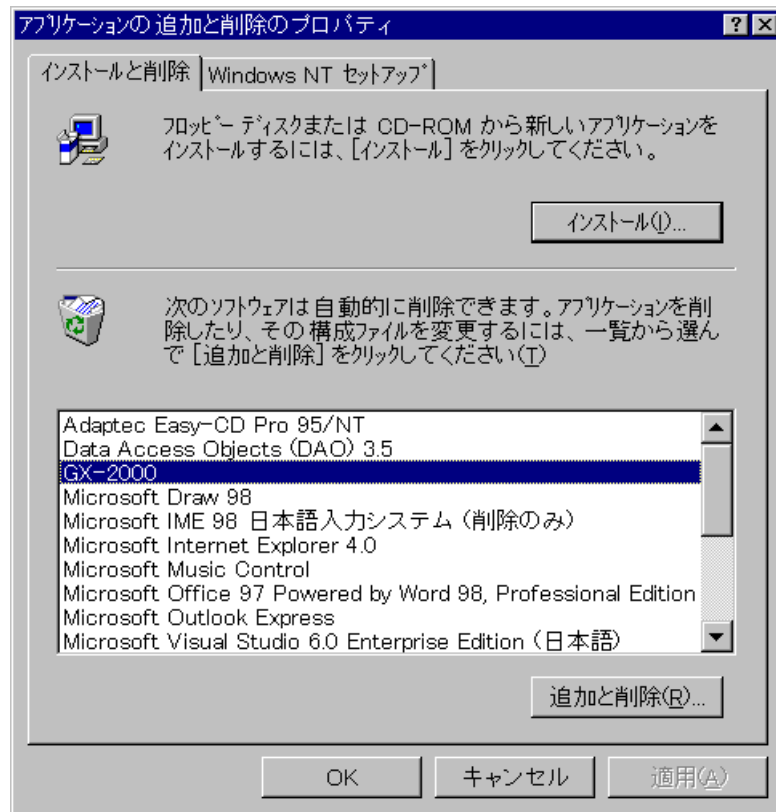
コントロールパネル(例)



コントロールパネル内の、“アプリケーションの追加と削除”をダブルクリックし、起動します。

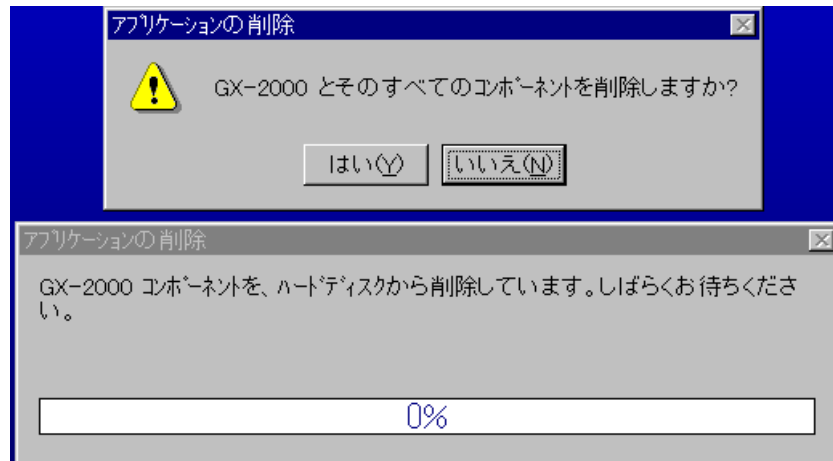
● GX-2000 の選択

“アプリケーションの追加と削除”をダブルクリックすると以下の画面が起動します。



● 削除開始

“GX-2000”を選択(クリック)し、“追加と削除”ボタンをクリックします。



“はい”をクリックすると、アンインストールを開始します。

“いいえ”をクリックすると、アンインストールを中止します。

注意: アンインストール中に“共有コンポーネントを削除しますか?”とメッセージが出る場合があります。“全て削除”を選ぶと、他のアプリケーションに影響を与える場合がありますので、“全て残す”を選択してください。

3. 操作方法

スタートメニューをクリックし、“プログラム”の中にGX-2000があります。

この中には、以下のプログラムが収められています。

- 1) GX-2000 … GX-2000 データログ プログラム本体
- 2) ライセンス … 本製品のソフトウェア使用許諾契約書

3-1. 基本画面

GX-2000 データログ プログラム本体の項をクリックしますと、オープニング画面の後、基本画面が表示されます。



基本画面が4つの場所に分けられています。

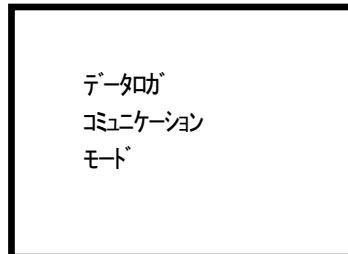
- 1) 左上 … 年月で作成されるデータフォルダの一覧表
- 2) 右上 … データフォルダ内に格納される、各受信データの一覧表
- 3) 中段 … 操作を簡単に表記した簡易ヘルプ
- 4) 下段 … 操作を行うためのボタン群

① GX-2000 から最新データを受信する

● 本体の準備

- ① GX-2000 本体の電源を、一度 OFF にします。
- ② GX-2000 本体とパーソナルコンピュータを付属の通信ケーブルで接続します。
- ③ GX-2000 本体の電源を ON にします。

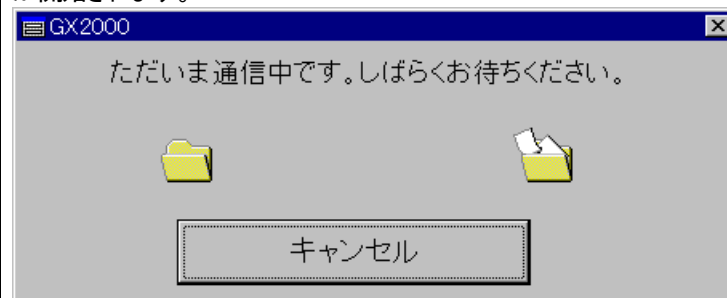
GX-2000 本体の液晶画面が以下のように表示されます。



注意: GX-2000 本体の表示が上記と異なる場合は、GX-2000 本体の電源を OFF にし、ケーブルの接続が正しいか確認した後に再度、電源を ON にしてください。

● 通信の開始

本ソフトウェアの“データ受信”ボタンをクリックすると以下のような表示とともにデータの受信処理が開始されます。



データの受信には、長いときは数分程度かかる場合があります。

キャンセルボタンをクリックした場合は、本体側とのキャンセル処理を行った後、回線を切断しますので、若干の時間がかかる場合があります。

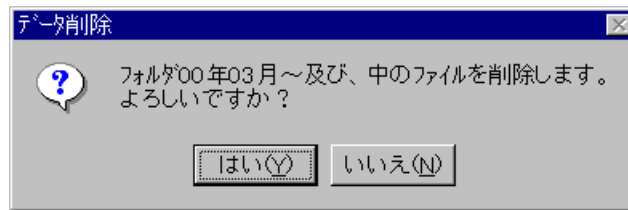
データ受信が完了した場合は、上記画面は自動的にクローズされ基本画面に戻ります。

データ受信したのがインストール後最初、または新しい月になってから最初の場合は、自動で新しい年月のデータフォルダを作成し、そこにデータが保存されます。

② 既存データを削除する

● フォルダの削除

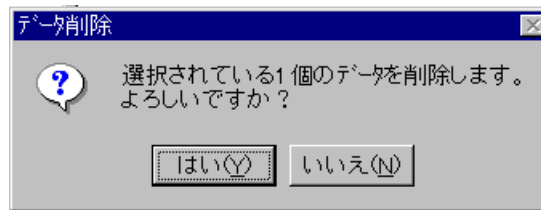
- ① 削除したい年月フォルダをクリックします。
- ② “データ削除”ボタンをクリックします。



“はい”をクリックすると、フォルダが削除されます。
 “いいえ”をクリックすると、削除処理がキャンセルされます。

● データの削除

- ① 削除したいデータのある年月フォルダをクリックします。
- ② 受信データ一覧表にその年月のデータが表示されますので、その中から削除したい受信データをクリックします。
- ③ “データ削除”ボタンをクリックします。



“はい”をクリックすると、データが削除されます。
 “いいえ”をクリックすると、削除処理がキャンセルされます。

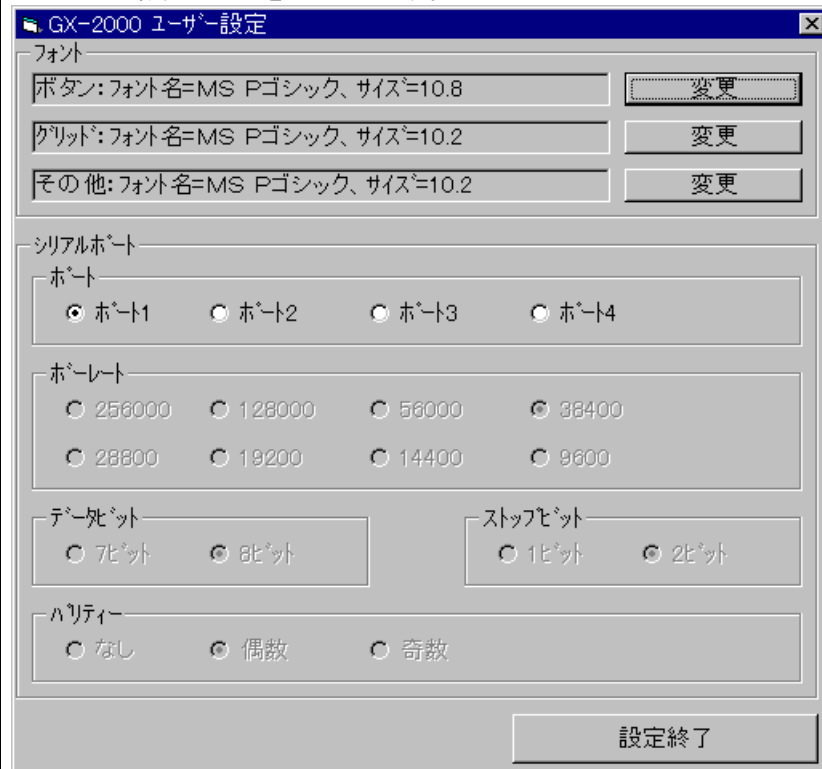
③ 受信データの内容を表示する

● 一覧表へ移行

- ① 受信データ一覧表の中の見たい受信データをダブルクリックします。
 データ一覧表の使用法は → 3-2. データ一覧表 を参照ください。

- ④ 各種設定を変更する
 - ユーザー設定

“ユーザー設定”ボタンをクリックします。



- ボタンのフォントを設定する
- 一覧表のフォントを設定する
- 他の表示フォントを設定する
- 通信ポートを設定する

- ① “フォント”ブロックの上段がボタンフォントの現在の状態です。この右側の“変更”ボタンをクリックします。
- ① “フォント”ブロックの中段が、一覧表などのグリッド表示の現在の状態です。この右側の“変更”ボタンをクリックします。
- ① “フォント”ブロックの下段が、他の現在の状態です。この右側の“変更”ボタンをクリックします。
- ① GX-2000 とケーブルで接続した、ご使用のパーソナルコンピュータのシリアルポート番号を選択(クリック)します。

注意: 以下の項目は変更できません。
通信速度(ボーレート)、データビット、ストップビット、パリティ

3-2. データ一覧表

基本画面で、受信データをダブルクリックすると以下の画面に切り替わり、各種データの一覧を見ることが出来ます。



- 1) 上段 … データ一覧
- 2) 中段 … 操作を簡単に表記した簡易ヘルプ
- 3) 下段 … 操作を行うためのボタン群

① 各種データ一覧表に切り替える

● データログ

- ① “データログ”ボタンをクリックします。
データ一覧左上に“データログ NO”と表示されます。

● 瞬時値

- ① “瞬時値”ボタンをクリックします。
データ一覧左上に“瞬時値 NO”と表示されます。

● 警報トレンド

- ① “警報トレンド”ボタンをクリックします。
データ一覧左上に“警報 NO”と表示されます。

● 故障トレンド

- ① “故障トレンド”ボタンをクリックします。
データ一覧左上に“故障 NO”と表示されます。

② 基本画面に戻る

● 前に戻る

- ① “戻る”ボタンをクリックします。

③ データの詳細を見る

● 詳細へ移行

- ① データ一覧表の中の、詳細を見たいデータをダブルクリックします。
データ詳細の使用方法は → [3-3. データ詳細](#) を参照ください。

3-3. データ詳細

各データの詳細内容を表にした画面です、データ一覧表から任意の項目をダブルクリックすると以下の画面に切り替わります。

No.	測定日時	酸素(%)	可燃性ガス(%LEL)
0	2000/03/28 15:25:34	校正	校正
1	2000/03/28 15:25:34	20.9	0
2	2000/03/28 15:30:34	20.9	0
3	2000/03/28 15:35:29	20.9	0
4	2000/03/28 15:40:29	20.9	0
5	2000/03/28 15:45:29	20.9	0
6	2000/03/28 15:50:29	20.9	0
7	2000/03/28 15:55:29	20.9	0
8	2000/03/28 16:00:29	20.9	0
9	2000/03/28 16:05:29	20.9	0
10	2000/03/28 16:10:29	20.9	0
11	2000/03/28 16:15:29	20.9	0
12	2000/03/28 16:20:29	20.9	0
13	2000/03/28 16:25:29	20.9	0
14	2000/03/28 16:30:29	20.9	0
15	2000/03/28 16:35:29	20.9	0

測定開始日時	2000/03/28 15:25:34	
記録時間(分)	5	
サンプル数	278	
検知ガス	F.S	1デシット
酸素	25.0 %	0.1 %
可燃性ガス	100 %LEL	1 %LEL
一酸化炭素	300 ppm	1 ppm
硫化水素	150.0 ppm	0.5 ppm

変換ボタンでExcel等で読めるファイルを保存できます。
印刷ボタンで詳細を印刷できます。
クリップボードボタンで詳細をExcelに貼り付けられます。

変換(H) 印刷(L) クリップボード(C) 戻る(X)

- 1) 左上 … データの詳細の一覧表
- 2) 右上 … 測定時の時刻や、ガスの情報をまとめた一覧表
- 3) 中段 … 操作を簡単に表記した簡易ヘルプ
- 4) 下段 … 操作を行うためのボタン群

① 詳細データを Excel で読める形式にして保存する

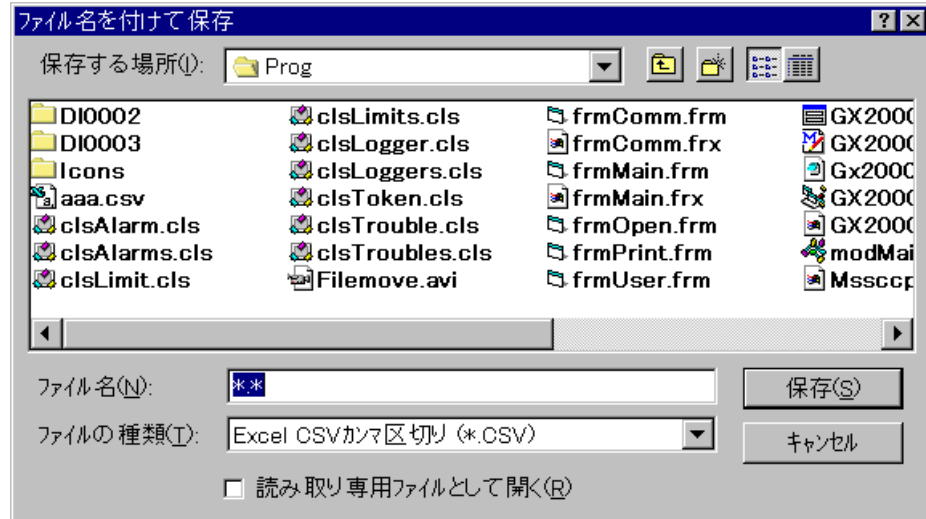
● 変換形式

変換処理とは、詳細データを以下のフォーマットで保存するものです。

- ① Excel 用カンマ区切りテキストファイル(拡張子 CSV)
- ② 通常テキスト用タブ区切りファイル (拡張子 TXT)
- ③ 汎用テキスト用タブ区切りファイル (拡張子 なし)

● 変換方法

① 変換したいデータの詳細が表示されている状態で、“変換”ボタンをクリックします。



- ② “保存する場所(I)”で、保存したい場所(フォルダ)を指定します。
- ③ “ファイルの種類(T)”で、保存したい変換形式を指定します。
- ④ よければ、“保存”ボタンをクリックします。
- ⑤ “キャンセル”ボタンをクリックした場合は、変換処理はキャンセルされます。

注意: データの変換は、保存と同時にされます。

② 詳細データを印刷する

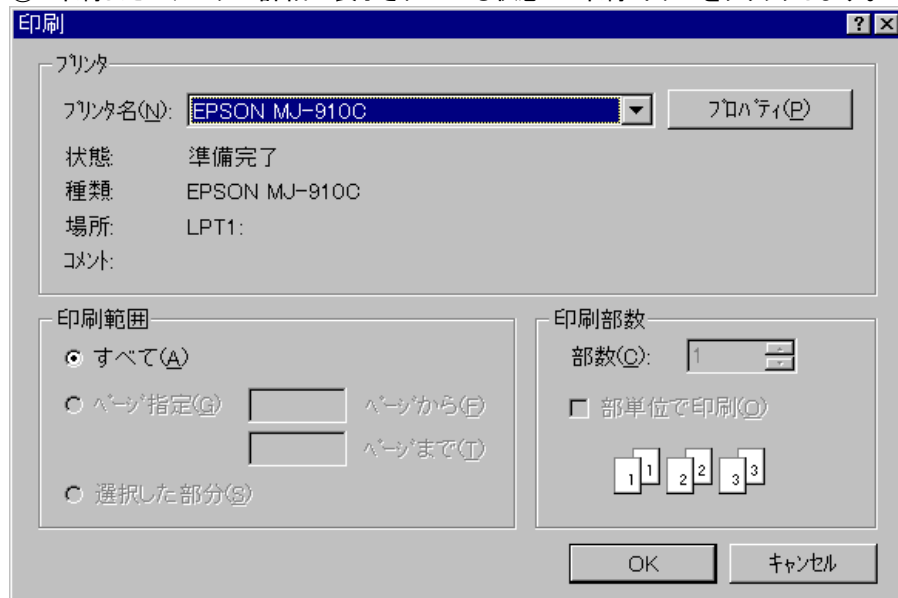
● 印刷準備

以下の項目の確認を行ってから印刷をしてください。

- ① パーソナルコンピュータとプリンタのケーブルはきちんと接続されているか
- ② 適切なプリンタドライバがパーソナルコンピュータにインストールされているか

● 印刷設定

- ① 印刷したいデータの詳細が表示されている状態で“印刷”ボタンをクリックします。



- ② 使用するプリンタを、“プリンタ名”で指定します。
- ③ プリンタの設定を変更したい場合は、“プロパティ(P)”をクリックします。
- ④ よければ“OK”ボタンをクリックします。
“キャンセル”ボタンをクリックした場合は、既存の情報で印刷設定を終了します。

この後、設定画面が閉じて、印刷画面が起動します。

注意

プリンタ設定の注意点

- ① プリンタの詳細設定は、ご使用のプリンタで異なります。お持ちのプリンタの取り扱い説明書をご参照ください。
- ② 本プログラムは“印刷範囲”の項目を指定することは出来ません。よって、選択した詳細データの一部のみを印刷するような使い方は出来ません。
- ③ 印刷部数の設定は、指定したプリンタによって設定できるプリンタのみ変更可能になります。
ここでの変更は、以後使用する他のアプリケーションにも影響を与えます。(たとえば、印刷部数を2部にした場合、他のアプリケーションの印刷も2部になる場合があります。)
本プログラムでプリンタ設定を変更した場合で、その後、他のアプリケーションで印刷を行う場合は、そのアプリケーションの印刷設定をご確認してから印刷してください。

印刷画面(例)



● 即印刷する

- ① “印刷”ボタンをクリックします。
- ② “よろしいですか？”と聞いてきますので、プリンタの準備がよろしければ“はい”ボタンをクリックしてください。
- ③ 印刷データをプリンタに送った後、この画面は自動的に閉じメインの画面に戻ります。

● 再設定する

- ① “設定”ボタンをクリックします。
再度、印刷設定画面が起動しますので、変更したい項目を指定します。

● 印刷中止

- ① “戻る”ボタンをクリックします。
印刷画面が閉じ、データ詳細に戻ります。

注意:印刷プレビュー画面は、先頭の約50データのみ表示します。それ以降のデータは表示しません。

③ 詳細データを直接 Excel に貼り付ける

● クリップボード

クリップボードとは、Windows が標準で装備している、各種アプリケーションソフト間でのデータの移動を目的にしたバッファメモリです。
 詳細データを Excel に直接貼り付けられるようにクリップボードにデータを格納する機能です。

● 準備

- ① 本ソフトの詳細データ画面を表示しておく。
- ② Excel を起動する。

● 詳細を格納

- ① 本ソフトの“クリップボード”ボタンをクリックする。
 (このとき画面に変化はありません。)

● Excel に貼付け

- ① Excel に移動し、貼り付けたい領域の左上のセルを選択する。
 (下の貼り付け例では“A1”セルを選択しています。)
- ② Excel の編集メニューの“貼り付け”をクリックする。

Excel に貼り付けた詳細データ(例)

No.	測定日時	酸素(%)	可燃性ガス(%LEL)	一酸化炭素(ppm)	硫化水素(ppm)	温度(°C)
0	2000/2/14 9:35			警報		19.7
1	2000/2/14 9:35			オーバー		19.9
2	2000/2/14 9:35			RESET		19.8
3	2000/2/14 9:35			復帰		20

注意

各ボタンの表記と操作方法

各ボタンには、その処理を示す名称(たとえば、“データ受信”、“印刷”など)の後ろに括弧でくられたアンダーバー付きのアルファベットが1文字あります。(例えば、“データ受信(G)”、“印刷(P)”など)

これらの括弧でくられたアルファベットを“ショートカットキー”と呼び、キーボードの“Alt”キーを押しながら括弧内のアルファベットを押すと、そのボタンをクリックしたときと同じ動作を行います。

例: 詳細画面表示時に、“Alt”キーを押しながら、“P”キーを押すと印刷処理に移ります。

マウスを使用しないで操作するためのもので、Windows 全般に備わっている機能です。

4. データの保守

使用方法によっては、1日に数回のデータを読み込む場合など、すぐにデータが多くなり見たいデータを探すだけでも苦勞してしまう場合も考えられます。また、予期せぬパーソナルコンピュータのトラブルなどで、貴重なデータを失ってしまう可能性もゼロではありません。

これら不測事態にも対応できるように、定期的にデータのバックアップを取っておくことをお勧めします。

4-1. データの格納構造の詳細

データはインストールした GX-2000 プログラムのある場所に月別にフォルダを作成し、その中に該当年月データを格納していきます。

フォルダの名称 : “DLyymm”
“DL” : データが格納されているフォルダであることを示す接頭子
“yy” : 格納されているデータの受信時の年号(西暦の下2桁)
“mm” : 格納されているデータの受信時の月(01から12まで)
年・月共に、1桁の場合は10の位に“0”が入ります。(01,02,03...09)

データファイルの名称 : “Sddhmmss.DAT”
“S” : データファイルであることを示す接頭子
“dd” : 格納されているデータの受信時の日(01から31まで)
“hh” : 格納されているデータの受信時の時間(24時間制 00から23まで)
“mm” : 格納されているデータの受信時の分(00から59まで)
“ss” : 格納されているデータの受信時の秒(00から59まで)
“.DAT” : データファイルであることを示す拡張子

4-2. バックアップ

使用形態にもよりますが、月別のフォルダごと別のハードディスク装置や、外部補助記録装置(MO、CD-R など)にコピーすることをおすすめします。

戻すときは、GX-2000 の実行プログラムのある場所に、コピーすればプログラムは起動時にデータを検索しますので、データを見ることが可能になります。

注意:データの量にもよりますが、フロッピーディスクでは容量不足のため入りきらない場合があります。その場合は、フロッピーディスクに入る容量になるようにデータファイルを数個単位でコピーします。

5. 使用上の注意点

本プログラムをご使用の場合は、以下の項目について十分配慮するようお願いします。

- ① データ受信時は、シリアルポートにGX-2000本体が接続されており、本体側がデータログモードになっていることを確認してください。他の機器等が接続されている場合は、その機器の動作不良を招く可能性もあります。また、間違ったデータを受信し、プログラムの動作に支障をきたす場合もあります。
- ② 受信・印刷処理中は、同時に他のアプリケーションでも同じような操作をするようなことは避けてください。(たとえば、データ受信中に他のアプリケーションで同じシリアルポートを変更したり、本プログラムで印刷と同時に他のアプリケーションで印刷を行うと行った行為)
- ③ 本プログラムを強制終了しないでください。(Ctrl + Alt + Delでの操作など)本プログラムは終了処理時に設定パラメータを保存し、次回起動時に備えます。そのため、強制終了した場合は、次回起動に障害をもたらす可能性があります。
- ④ データファイルを直接書きかえることはしないでください。

6. クイックリファレンス

6-1. 各画面のボタンとショートカットキー

画面	ボタン	概要	ショートカット
基本画面	データ受信	GX-2000 からデータを受信	Alt + G
	データ削除	フォルダ・受信データの削除	Alt + R
	ユーザー設定	各種フォントの設定と通信ポートの変更	Alt + U
	終了	本プログラムの終了	Alt + X
データ一覧画面	データログ	データログ一覧表の表示	Alt + D
	瞬時値	瞬時値の一覧表の表示	Alt + L
	警報トレンド	警報発報履歴一覧の表示	Alt + A
	故障トレンド	故障発報履歴一覧の表示	Alt + T
	戻る	基本画面に戻る	Alt + X
データ詳細画面	変換	各種フォーマットファイルの保存	Alt + H
	印刷	詳細データの印刷	Alt + L
	クリップボード	Excel 用詳細データのコピー	Alt + C
	戻る	データ一覧画面に戻る	Alt + X
印刷画面	印刷	印刷の開始	Alt + P
	設定	プリンタ設定	Alt + S
	戻る	データ詳細画面に戻る。	Alt + X

6-2. エラーメッセージ一覧

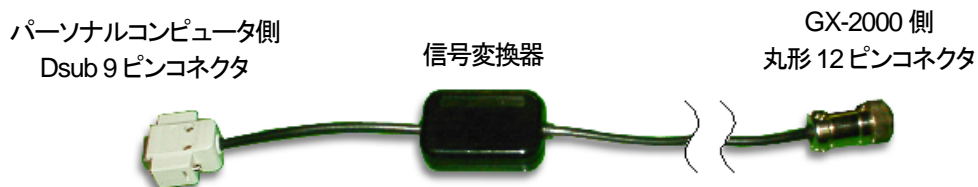
メッセージ文書	内容・対処法
データが選択されていません。	基本画面で、削除ボタンクリック時に削除対象が選択されていない場合に表示されます。選択データをクリックしてから削除ボタンをクリックしてください。
プリンタが設定されていません。 コントロールパネルでプリンタの設定をしてください。	システムにインストールされているプリンタドライバが1つもありません。使用するプリンタのドライバーをコントロールパネル等でインストールしてから印刷ボタンをクリックしてください。
すでに起動されています。	本ソフトウェアは、すでに起動されています。通信処理が重なるような不具合を回避するため本ソフトウェアは、複数が同時に起動することはできません。
通信中にエラーが発生しました。	GX-2000の通信途中で、何らかの原因によりデータが受信できなくなりました。ケーブルや各種設定を再確認し、再読み込みしてください。
データが受信できません。接続を確認してください。	GX-2000と全く通信が出来ません。本体電源・ケーブル・通信設定を確認してください。
通信データがうまく受信できませんでした。 再受信してください。	全てのデータを受信しましたが、データの一部に不具合を検出しました。このデータをそのまま使用することは出来ませんので本ソフトウェアは無条件に破棄します。周辺にノイズを多く出す機器等が無いか確認し再受信してください。

7. ケーブル仕様

7-1. 使用ケーブル

GX-2000 本体と、パーソナルコンピュータとの接続には、別売の GX-2000 用通信ケーブル“RC-2000”をご使用ください。

7-2. コネクタ、ケーブル内容



7-3. ケーブル結線図

パーソナルコンピュータ側
Dsub 9 ピンコネクタ

GX-2000 側
丸形 12 ピンコネクタ

RXD(2)	_____	TXD(B)
TXD(3)	_____	RXD(C)
CTS(8)	_____	RTS(E)
RTS(7)	_____	CTS(L)
SG (5)	_____	GND(A)
DTR(4)	_____	(D)
DSR(6)	_____	(F)
DCD(1)	_____	(G)
RI (9)	_____	(H)
		(J)

注記 :

括弧内の数値・文字は、コネクタのピン番号を示しています。
接続線の明記されていないものは、どこにも接続しません。

注意

パーソナルコンピュータのシリアルポートに関する注意点

DOS/V パソコン(PC-AT 互換機)のパーソナルコンピュータは、シリアルコネクタに Dsub9ピンのコネクタを使用していますが、古いタイプでは一部 Dsub25 ピンを使用しているものもあります。また、NEC 社製 PC9801、PC9821 シリーズは Dsub25 ピンのコネクタを使用しております。

現在の DOS/V パソコンは、Dsub25 ピンはプリンタポートに使用されており、間違って接続しますと機器の故障につながります。

ご使用になられているパーソナルコンピュータのシリアルポートを良くお確かめください。

Dsub25 ピンのコネクタの場合は、市販の9ピン → 25ピン変換ケーブルがご使用になれます。

8. ソフトウェア機能諸元

プログラム名	GX-2000.EXE
使用可能 OS	Microsoft 社製 Windows 95(OSR2 以降) Windows 98 Windows NT4.0(サービスパック3以上) Windows XP
プログラム容量	本体部約400KB、ライブラリー約5.2MB (インストール時最大20MB の領域使用)
データ容量	1データあたり最大200KB
格納データ数	1フォルダ(1月)あたり約250データ 最大フォルダ数 約250個(20年10ヶ月相当) 可能データ最大数 63500データ(理論計算値)
本体通信	調歩同期式シリアルインターフェース (EIA-232,EIA-574)準拠方式 標準通信設定 ボーレート 38.4Kbps データビット 8ビット ストップビット 2ビット パリティ 偶数
転送時間	最大約 1 分 30 秒(標準通信設定時)
媒体	CD-ROM 1 枚 または、フロッピーディスク(ディスク) 2枚(1.44MB)
パッケージ内容	取扱説明書(本書) 製品保証 登録カード 使用許諾契約書